

第2回総合計画審議会で各委員から出された意見

(産業・観光・まちづくり部会関係)

(小磯会長)

・地域創造研究センターでは、「文化創造都市への挑戦」として、文化創造都市プロジェクトを進めている。文化創造都市の「文化」は大変幅の広い概念。文化・芸術よりも幅広い、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育なども含む広い意味合い。これからの都市政策を進めていくには、改めて足元にある幅広い地域資源を文化資源として、そこに価値をつけて、地域の力を高めていくことが必要。そこで大事なものは、恵庭の人々が足元にある資源を文化資源をしっかりと再認識すること。

【基本目標5】

- ・商業施設がなくなると買い物が不便になる。
- ・恵庭市内の経済がきちんと循環しているか非常に気になる。経済は少し弱いと思うので、それをぜひ検討いただきたい。
- ・何か物を買に行くときに他のまちに行くのではなく、商業施設を充実させるなど、恵庭市内でも賄えるようになればいい。
- ・サッカーチームやプロ野球二軍、ラピダス、エスコンといったものが結び付けるまちになるといい。交流やにぎわいが生まれる「はなふる」をどのように活用していくか課題になると思う。
- ・恵庭市の産業連関表のポイントは、企業の立地も多く、大きな生産力を持っているが、一方でそこで生産されたものが外に流出している割合が大きい。恵庭市の単位で見ると、いわゆる自給率が低く、通過型産業が多いという経済構造。
- ・産業連関表が観光振興だけに位置づけられているが、恵庭全体の産業連関力を高めていくことが必要。

【基本目標6】

- ・恵庭は分断されたまちのイメージがあるが、今後どのようにまちづくりをするのか。
- ・コンパクトなまちづくりでは、市街化区域の居住誘導区域内に空き地が放置されている非常にもったいない話があり、そういったところには複合施設を充実させていくということも大事
- ・移住者を増やす観点では、行政のサービスのほかに町内会で相談に乗ってくれるような、移住アンバサダーがいるといいと思う
- ・駅周辺だけが活性化されるのではなく、恵庭、恵み野、島松が繋がるような構想が必要だと感じた。都市計画マスタープランでは3つの駅を中心としたコンパクトシティでということだったが、この基本構想ではあまり触れられていないように感じる。